

第4回 国際森林年国内委員会 議事概要

日時：平成23年10月14日（金）10：00～11：00

場所：農林水産省第2特別会議室

出席者：（国内委員）佐々木座長、天野委員、飯塚委員、出井委員、井上委員、草野委員、ニコル委員、多田委員、沼田委員、宝月委員、宮林委員

（オブザーバー）

森本農林水産大臣政務官、溝畑観光庁長官

（事務局：林野庁）

皆川長官、沼田次長、末松林政部長、古久保森林整備部長、本郷計画課長、

上田海外林業協力室長 外

議事概要：

【委員会に先立ち、森本大臣政務官より挨拶】

（森本大臣政務官）今日は尊敬する皆様に会えて大変うれしい。自分は15歳から農林業に従事してきた。その頃と比べると最近の森の様相は一変し、地域力が落ちてきたと感じざるを得ない。森は命をはぐくむ場所であると認識している。

東日本大震災が発生し、現在復興の段階にあるが、有害鳥獣のこと、生態系のことを含めて大きな視野に立って取組を進めていかなければ、日本は持続可能な発展を達成することは出来ないだろう。国際森林年の取組は21世紀の子供たちが健やかな未来を育むことが出来るような取組であってほしい。本日は委員の皆様の忌憚なきご意見を頂きたい。

（佐々木座長）それでは議題1「国民に向けたメッセージの発出について」について、前回の委員会で議論頂いたことを踏まえ事務局で案文を作成してもらったので説明願う。また併せて議題2「国際森林年子ども大使」について事務局から説明願う。

（皆川長官）（資料に基づく説明の後で）本日ご欠席の委員のうち、赤池委員、坂本委員、三村委員からはメッセージ及び行動提案について具体的なご意見を頂いている。

赤池委員：メッセージ案は（案3）を支持。行動提案について、森の資源は多様である観点から、もう少し幅広い利用をイメージさせるような書きぶりにして頂きたい。

坂本委員：メッセージ案は、（案3）「森のチカラで、日本を元気に。」に一票入れたい。また、行動提案は、＜震災復興＞に記載のある「木材のカスケード利用」や「地域の復興を目指した森林づくり」に重点を置いて頂きたい。

三村委員：海外出張により出席できず残念。最も重要なことは林業が産業として自立していくことである。

(佐々木座長) それでは、案文についてご意見を頂きたい。また、メッセージ案については3つの案から選ぶ形になっているので、どれが良いかについてもご意見頂きたい。

(天野委員) 文言の問題が二つある。一つは1枚目の下から6行目「資源の活用の仕方を見直す」について分かり難い。木質バイオマスを多用していくという意図だと思うが、明確に書いた方がよい。また、最後のページに木質バイオマスの用語が出てくるが、これはカギ括弧で括るべき。

これまで林野庁は5つの委員会を設けて森林・林業再生プランの具体化に取り組んできた。自分も委員をさせて頂いた。前総理も積極的であり画期的なことであった。ただ、プランの内容は林業、人工林ばかりである。「森林・林業」のうち、森林、特に天然林に関する議論がなかったことは残念。

長官の説明では数十年というスパンの中で、国際森林年以降も取り組んでいくということだった。NGOが提案して生物多様性条約COP10で採択された「生物多様性のため10年」のような取組を、森林分野でも行っていくべき。政府内でそういった議論をすべき。

(井上委員) 大変分かり易いが、国民からの意見をみると「実際何をしたいのか分からない」「形容句が多い」といった指摘もあり、その上で読み返してみると確かに抽象的と思われる箇所がある。

木材産業に関わる立場から言えば、森林・林業という単に伐採するまでの話ではなく、それを加工し製品にして届けていくという部分がなければ産業として具体性を欠く。案文の中で「森林・林業」という言葉が4箇所出てくるが、これを「森林・林業・木材産業」とすれば具体性が高まる。メッセージ案については(案3)を支持する。

(出井委員) よくまとまっているが、資料1ページ目の「海外では守るべき森林が・・・」について主語を明確にすべき。海外で木を切ってその多くを輸入してきたのは日本のはず。一方で外材の氾濫により国内の森林は放置されている矛盾をもう少しはっきり書くべき。メッセージ案については(案3)を支持。

(草野委員) 全く同じ箇所が気になっていた。「放置されて適切な管理・利用が難しくなっている森林があります」の部分が他人事のような。こうなった背景、日本人の心が森から離れた理由をもう少し盛り込むべき。安価な外材に押されて林業が衰退したという反省を踏まえ踏み込んだ記述にしてほしい。

(ニコル委員) 文章の中身はこれでいいと思う。

ウェールズに3万 ha の森を持っている。そこでは一人の若いレンジャーが働いて、森に住むシカの管理をしている。シカの肉は高く売れるので、時に彼は密猟者を相手にすることもある。日本にも彼のような森を守るレンジャーが必要。先日地元の町長と話したら「クマは敵だ」と言っていた。が、私の考えでは敵ではない。持続可能な発展の中にクマ、シカ、サルも入れるべきだ。管理のための専門家を養成すべきだ。メッセージ案は（案3）を支持する。

（宝月委員）構成や内容は良い。ただ、国民からの意見にもあったように行動提案の中のカスケード、バイオマスなどの言葉は一般にはなじみがない。一般の人にわかるような表記をすべき。

行動提案の中には具体的なものと抽象的なものが混在している。

例えば<人づくり>では教育の話と文化・技術の話があり、項目の整理、表記の順序の整理、似たものは括る努力をした方がいい。細かい言葉づかいや日本語としてどうかという部分もある。

メッセージ案については、（案1）の「22世紀」にはちょっと早いし、（案2）は抽象的であり、（案3）がいいと思う。

（宮林委員）全体的にはいい。

行動提案<人づくり>の4、「日本の森林を活かし、山村が活性化するアイデア」についてどう活性化するか見えた方がいい。そこで「元気な日本を」というフレーズを入れるとよい。国際森林年のイベントとして「世界森林アクションサミット」があり、かなり素晴らしい提案が出ているので、広報する際の連携も考慮してほしい。メッセージは（案3）を支持。

（溝畑観光庁長官）国際森林年の取組を林野庁と連携してやってきた。吉野も東北も見てきたが、震災や台風のあった今年、森林に対する国民の意識は高まっており、今こそ国民をあげて取り組まないといけなない。「日本の森を守る」ことを国家戦略に取り込んで行くべき。

（多田委員）意見について別途文書で提出したところ。行動提案<木づかい>の3に資材のストックの考え方を取り入れて頂いた。里山について、動物と人間のニアミスを起こさないという観点から見直すべきだ。里山の整備は体験学習の場としても入りやすい分野である。

<人づくり>の4に「山村が活性化するアイデアをみんなで考え」とあるが、山村活性化のアイデアはこれまで出し尽くしており、これ以上何がだせるのか。メッセージ案について自分は（案2）を支持する。

（沼田委員）カスケードという言葉がわかりにくい。メッセージ案は（案2）がいい

と思っていたが無理かもしれない。三行のメッセージを重ねるのが良くないのであれば、「森が人と日本を育む」というメッセージを考えてみた。ただ、(案3)でもいい。

(天野委員) 里山について、里山イニシアティブが全く報道されていない。人工林を使うことと里山の整備とは重なっていることを理解してもらうべき。

(宝月委員) 先ほど(案3)を支持すると言ったが、沼田委員の「森が人と日本を育む」はなかなか良い提案だ。里山の話が出ているが、<森づくり>の4に里山のことがあるので、ここの表記を充実させればいい。

(森本政務官) メッセージ案の(案3)「森のチカラで、日本を元気に。」で「チカラ」とカタカナ表記にしている理由は？

(天野委員) メッセージをポスターにしたときのデザインの問題と理解。漢字の「力」は一字だが、カタカナの「チカラ」は3文字でインパクトがある。

(佐々木座長) 案文全体について、主語を明確にすべき。抽象的で上滑りになっているところもある。ただ皆さんもお忙しいので、案文については、各委員からの意見を基に再度検討して結果をお知らせし、正式に発表したい。このことは余り間を置かずに速やかにすすめたい。

なお、このメッセージ及び行動提案の発出を終えると当委員会の役割はひとまず終わったことになるが、2011年の国際森林年の取組を総括することも当委員会の重要な仕事であると考えられる。来年年明けに最後の委員会を開催したいと思うがいかがか。

これらのことについて各委員はよろしいか。(「異議なし」の声) それではこれで委員会を終了する。

(なお、メッセージ案については、第3案を支持する意見が多かったとの判断に基づき、座長の責任でそのように取り扱うこととした。)